衛生法規に関する知識【解答】

問１　クリーニング業法（以下、「法」という。）に定められた法の目的及び用語の定義について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を（　　）内に記入しなさい。

≪各４点×６＝２４点≫

1　（ ○ ）　この法律は、クリーニング業に対して、その経営を公共の福祉に適合させるとともに、利用者の利益の擁護を図ることを目的とする。

2　（ ○ ）　この法律の目的を達成するための手段は、公衆衛生等の見地から必要な指導及び取締りを行うことである。

3　（ ○ ）　クリーニング業とは、溶剤又は洗剤を使用して、衣類その他の繊維製品等を原型のまま洗たくすることを営業とすることをいう。

4　（ × ）　営業者とは、クリーニング業を営む者であり、洗たくをしないで洗たく物の受取及び引渡しをする者は含まれない。

5　（ × ）　クリーニング師とは、厚生労働大臣が行うクリーニング師試験に合格した者に与える免許を受けた者をいう。

6　（ ○ ）　クリーニング所とは、洗たく物の処理又は受取及び引渡しのための営業者の施設をいう。

問２　次の記述は、クリーニングに関する衛生の向上及び確保を図ることを目的に定められた、「クリーニング所における衛生管理要領（昭和５７年３月３１日環指第４８号厚生省環境衛生局長通知）」の内容を表したものです。本要領の内容を踏まえ文中の（　　）にあてはまる最も適当な語句を下欄の中から選び、その記号を記入しなさい。

≪各４点×９＝３６点≫

1　クリーニング所は、（ ア ）等により外部と完全に区分されていること。
2　洗濯場は、（ イ ）と隔壁等により区分されていることが望ましいこと。
3　洗濯場の床及び腰張りは、コンクリート、タイル等の（ ウ ）を使用し、清掃が容易に行える構造であること。
4　クリーニング師は、衛生法規に関する知識、（ オ ）に関する知識並びに洗濯物の処理に関する専門知識及び技能等を有する者である。
5　ドライクリーニング処理を行うクリーニング所は、（ キ ）等に留意し、環境汚染防止に努め、気化した有機溶媒の排気又は回収に配慮すること。
6　し尿等の汚物が付着している洗濯物（おむつ等）の前処理は、（ ク ）に所定の場所で行うこと。
7　営業者は、常に従業者の（ コ ）に注意し、従業者が結核等にかかったときは、営業者は保健所に届け出ること。
8　洗たく物を80℃以上の熱湯で（ ソ ）処理する工程を含むものは、消毒効果を有する洗たく方法である。
9　クリーニング師等は、営業者の指示に従い、責任をもって（ ス ）に努めること。

ア　隔壁	イ　受渡し場及び仕上場	ウ　不浸透性材料
エ　吸水性材料	オ　公衆衛生	カ　食品衛生法
キ　大気汚染防止法	ク　本洗の前	ケ　就業管理
コ　健康管理	サ　５分間以上	シ　本洗と同時
ス　衛生管理	セ　選別場及び乾燥場	ソ　１０分間以上

問３　次の営業者の義務等に関する記述について、正しいものには〇印を、誤っているものには×印を（　　）内に記入しなさい。

≪各４点×５＝２０点≫

1　（ × ）　営業者は、クリーニング所以外においても、営業として洗たく物の処理を行い、又は行わせることができる。

2　（ 〇 ）　営業者は、洗たく物の洗たくをするクリーニング所に、業務用の機械として、洗たく機及び脱水機をそれぞれ少なくとも一台備えなければならない。

3　（ 〇 ）　営業者が、伝染性の疾病の病原体による汚染のおそれのあるものとして厚生労働省令で指定する洗たく物を取り扱う場合であって、これを洗たくするとき、その前に消毒しなくてもよい場合がある。

4　（ × ）　営業者は、洗たく物の受取及び引渡しをしようとするときは、利用者が希望した場合のみ洗たく物の処理方法等について説明すること。

5　（ × ）　営業者がクリーニング師であり、自らが主として一つのクリーニング所において業務に従事する時でも、当該クリーニング所には営業者とは別にクリーニング師を置かなければならない。

問４　次のクリーニング所の営業者の届出等に関する記述について、正しいものには〇印を、誤っているものには×印を（　　）内に記入しなさい。

≪各４点×５＝２０点≫

1　（ 〇 ）　クリーニング所を開設しようとする者は、クリーニング所の位置、構造設備及び従事者数並びにクリーニング師の氏名その他必要な事項をあらかじめ都道府県知事に届け出なければならない。

2　（ × ）　クリーニング所を開設する際に届け出た事項に変更を生じたとき、営業者は６カ月以内に都道府県知事に届け出るよう努める。

3　（ 〇 ）　伝染性の疾病の病原体による汚染のあるものとして厚生労働省令で指定する洗たく物を取り扱わない営業者は、クリーニング所の開設の届出書に、その旨を記載しなければならない。

4　（ × ）　クリーニング所を開設しないで洗たく物の受取及び引渡しをする無店舗取次店を営業する者は、都道府県知事に届け出る必要はない。

5　（ 〇 ）　クリーニング業法には、クリーニング所の開設の届出をしない者又は虚偽の届出をした者に対して罰金を科す規定がある。

公衆衛生に関する知識【解答】

問１　次の公衆衛生の主なねらいに関する記述について、文中の（　）にあてはまる最も適切な語句を下欄の中から選び、その記号を記入しなさい。

≪各５点×５＝２５点≫

公衆衛生の主なねらいは、（　エ　）を予防し、（　カ　）を良好にして、（　オ　）を延長するとともに、肉体的、（　イ　）健康と機能の向上を図ることであり、公衆衛生の働きを推進していくための主体は国、地方公共団体、組織化された地域社会や（　ウ　）社会などである。

ア　人間関係	イ　精神的	ウ　職域	エ　疾病	オ　寿命
カ　生活環境	キ　格差	ク　現代	ケ　科学的	

問２　次の疾病予防に関する記述について正しいものには○印を、間違っているものには×印を（　）内に記入しなさい。

≪各５点×５＝２５点≫

1　（　×　）　感染症のひとつである風疹は、ウイルスではなく細菌によるものである。

2　（　×　）　予防接種には、弱毒株の生きた病原体である生ワクチン、死滅させた病原体である不活化ワクチン、毒素の毒性が失われて免疫原性のみが残っているメッセンジャ－RNA ワクチンなどが使われる。

3　（　×　）　1m以内のくしゃみで感染する飛沫感染には麻疹や結核などがあり、5m離れていても感染する飛沫核感染（空気感染）にはインフルエンザウイルスなどがある。

4　（　○　）　保険者が行う特定健康診査は、メタボリックシンドロームに着目した健診であり、基本的な項目として腹囲などの身体測定、血圧測定、血液検査、尿検査等がある。

5　（　○　）　感染症の発生または流行の予防は、感染源（病原体）の存在、感染経路の存在、宿主の感受性の３つの要因のうちひとつでも取り除くことが重要である。

問３　次の環境衛生に関する記述について正しいものには○印を、間違っているものには×印を（　）内に記入しなさい

≪各５点×１０＝５０点≫

1　（ × ）　体内の水は主として呼気、不感蒸泄、喀痰、尿、糞便等により体外に排出されるが、その１日の排泄量は平常時、成人男性で約 1000ml と言われている。

2　（ ○ ）　ヒトの呼気中の炭酸ガス濃度は 3.50%、酸素は 16.89%であるが、吸気となる空気中には酸素は 20.93%で、炭酸ガスはほとんど含まれず 0.03%である。

3　（ ○ ）　酸欠症の原因に、タンク等での金属の酸化、微生物呼吸活動による腐敗の進行、有機溶剤の気化、封入窒素の漏出、ドライアイスの気化など、酸素の消費、含有率の低下などがある。

4　（ ○ ）　不完全燃焼で生じる有毒ガスである一酸化炭素（CO）は、血液中のヘモグロビンへの結合率が酸素に比べ遥かに高く、一酸化炭素中毒に最も弱い脳に障害を与え、生命をとりとめても言語障害、筋力障害、情緒異常などの後遺症を呈することが多い。

5　（ × ）　熱中症を回避する要因に、温度、湿度、輻射熱があるが、湿度が高いと汗が蒸発しやすく涼しさを感じ、高温の物質から放出される赤外線の輻射熱が暑さを感じる。

6　（ × ）　赤外線の健康への影響は、角膜や結膜に起こる電気性眼炎、皮膚紅斑などがある。

7　（ ○ ）　水道水には、塩素処理で死滅しない原虫のクリプトスポリジウムが存在することがある。

8　（ × ）　現代の繊維製品は、繊維製品の製造過程で使用される衣料処理剤（柔軟剤、衛生加工剤、染料、増白剤、防炎剤等）による着用時の健康問題はない。

9　（ ○ ）　下水の汚染度をチェックするのに、有機物や鉄塩、硫化物などを酸化するときに必要な酸素量を表した値である化学的酸素要求量(COD)と、好気性菌による有機物を分解するときに消費される酸素量を表した値である生物学的酸素要求量（BOD）が使用される。

１０　（ ○ ）　一般的には、感覚温度で夏は 22～23℃が、冬は 18～20℃が最も気持ちが良いとされている。

洗たく物の処理に関する知識【解答】

問１　次のランドリー仕上げの理論に関する記述について、文中の（　）にあてはまる最も適切な語句を下欄の中から選び、その記号を記入しなさい。（同じ番号には同じ語句が入る）

≪各４点×５=２０点≫

織物（布地）を二つに折って上から力を加えたとき、加えた力が弱く短時間ならば折り目は消えてしまう。しかし、加える力が強く長時間であり、（①）を超えた場合には、折り目は消えずに残る。織物が水分を含んだ状態のときは、繊維の（②）は減少するので折り目や（③）が付きやすい。このように（①）を超えた外力をかけたとき、復元しなくなり永久的な変形を起こすことを（④）という。（②）も（④）も、繊維によって特有の値があり、同じ繊維でも（⑤）や湿度の影響で変わってくる。

ア　弾性　　イ　粘性　　ウ　塑性　　エ　弾性限界　　オ　粘性限界 カ　塑性限界　　キ　温度　　ク　組織　　ケ　キズ　　コ　シワ

①	②	③	④	⑤
エ	ア	コ	ウ	キ

問２　次のドライ溶剤の性質とクリーニング適性の関係に関する記述について正しいものには〇印を、間違っているものには×印を（　）内に記入しなさい。

≪各４点×５＝２０点≫

1　（ × ）　比重は、大きい方が、洗たく中の「もみ」や「たたき」作用が小さいので、「ソフト洗い」に適している。

2　（ ○ ）　水の溶解度は、大きい方が、水溶性汚れの除去に効果的である。

3　（ × ）　粘度、表面張力は、大きい方が、洗たく物に浸透しやすいので、洗浄性にさらに良い効果を与える。

4　（ ○ ）　蒸気圧、蒸発速度は、大きいほど、乾燥しやすく、蒸留しやすい。

5　（ × ）　誘電率は、小さい方が、水溶性汚れの除去や再汚染防止に効果的である。

問３　次の繊維の性質に関する記述について、該当する繊維名を下欄の中から選び、その記号を記入しなさい。

≪各４点×５＝２０点≫

１　植物繊維であって、強く、熱の伝導性に富んでいること、水分の吸収発散が早いこと、肌ざわりが涼しいことなどの特長をもっているが、シワになりやすい性質ももっている。また、顕微鏡で観察すると繊維に天然のねじれはない。

２　日本で最初に作られた化学繊維で、しなやかでさらっとした肌ざわりがあり、美しい色に染まることから、ファッション素材としてブラウス、ワンピースなどに使用されている。水処理によって収縮したり、風合いが著しく低下することがある。

３　化学繊維であって、摩擦や引っ張りに強いだけではなく、軽いことも特徴の一つである。吸湿性が小さく、熱によって軟化、溶融する性質を持っている。

４　動物繊維であって、軽くて暖かく、吸湿性に優れ、シワになりにくい反面、収縮しやすく、虫害を受け、プリーツは水によって消失するなどの性質があり、繊維の表面にはうろこがある。

５　化学繊維であって、柔らかくて暖かな肌触りで、その上すぐれたかさ高性と保温性を備えており、染色性もよい。また、直射日光に対しても強い性質を持っている。

ア　綿　　イ　麻　　ウ　毛　　エ　絹　　オ　アクリル　　カ　ナイロン キ　ポリエステル　　ク　レーヨン　　ケ　ビニロン　　コ　ポリウレタン

1	2	3	4	5
イ	ク	カ	ウ	オ

問４　次の付属・飾り等のクリーニングの注意点に関する記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を（　）内に記入しなさい。

≪各４点×５＝２０点≫

1　（ × ）　プラスチック製ファスナーは、クリーニング、およびプレス時には必ず閉じた状態で行い、プレス温度１８０℃以下を守る必要がある。

2　（ ○ ）　スパンコールは金属、セルロイド、プラスチックなどの小さなボタン状のもので、なかには、ドライクリーニング溶剤などに溶ける場合があり、過酸化水素のような酸化漂白剤で漂白されるものもある。

3　（ ○ ）　ラメ糸は金属蒸着の場合、蒸着されたアルミニウムが汗、シミ、酸、アルカリなどで変質し、クリーニングで脱落したり変色したりすることがある。

4　（ ○ ）　天然皮革を使用したボタンは、色の流出が避けられないため、取りはずすなり、ポリ袋かアルミホイルなどで包んだ上からよく結び、生地にボタンの染料が移らないようにしておく。

5　（ × ）　プラスチック製ボタンの一つであるラクトボタンは、高級婦人服に用いられ、割れにくいが熱に弱く、高熱で変形したりするので注意する。

問５　次の洗たくの原理に関する記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を（　）内に記入しなさい。

≪各４点×５＝２０点≫

1　（ ○ ）　水洗いは、一般的にはせっけん、洗剤を用いて洗たく機で温水洗いするものをランドリー、中性洗剤を用いて弱い機械力で常温洗いをするものをウエットクリーニングと呼ぶ。

2　（ ○ ）　ミセルができ始める洗剤濃度のことをミセル臨界濃度といい、通常は0.05%以下であるが、実際にはこの臨界濃度よりはるかに高い洗剤濃度（約0.3%）で用いている。

3　（ × ）　羊毛、綿、ナイロンの3種類の繊維を汚れの付きにくい順に並べると綿、ナイロン、羊毛の順になる。

4　（ ○ ）　ドライクリーニングで除去しにくい汚れの大半は水溶性汚れである。なかでも塩類が蓄積すると、時に織物を硬くするし、糖やたんぱく質を残すと虫害を招く。

5　（ × ）　ドライクリーニングにおいて、溶剤相対湿度75%以上が可溶化状態で、この範囲でドライクリーニングすれば、水が衣料に対して安全であり、溶剤相対湿度75%以下では水の影響を受ける乳化状態となる。